

# 会 議 録 (要約)

会 議 名	管理者・副管理者会議（第2回 建設候補地選定会議）
開 催 日 時	平成26年11月25日（火） 17時00分～18時00分
開 催 場 所	印西地区環境整備事業組合 3階 会議室
出 席 者	板倉管理者、伊澤副管理者、岡田副管理者 【事務局】 杉山事務局長、山本庶務課長、大須賀工場長、鳥羽主幹 中野主査補、川砂副主査

## 次 第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題  
(1) 次期中間処理施設整備事業スケジュール  
(2) 建設候補地の選定
4. その他
5. 閉会

## 第2回建設候補地選定会議の要旨

### 1. 開会

#### 山本庶務課長

会議開催にあたり下記事項について説明し、管理者・副管理者へ了解を得る。

- ①建設候補地の選定に関して、関係人の利害が絡む協議が出てくることから、傍聴人の入室を認めないこと。
- ②会議録公開の際には、個人の情報等を削除するなど修正を加え公表すること。

### 2. 挨拶

#### 板倉管理者

本日の会議では、前回会議の指摘事項である次期施設の整備スケジュールと現施設の延命化との調整について再協議し、その内容を踏まえ建設候補地を一箇所に絞り込む。

### 3. 議題

- (1) 次期中間処理施設整備事業スケジュール

#### 板倉管理者

第1回会議において、伊澤副管理者からの指摘事項である「次期中間処理施設整備事

業スケジュール」について事務局へ説明を求める。

### 大須賀工場長

第1回会議では、正副管理者から指摘のあったアクセス道路整備の実現化や現施設の延命化事業との整合を図ったスケジュールとすべきといった意見から、各種の事業延伸リスクの程度及び一時の停滞も許されない極めて公共性の高い施設整備計画であることを総合的に勘案し直し、事業スケジュールを再設定した。

現施設の延命化について、循環型社会形成推進交付金を充当した基幹的設備改良事業が最善か単費による大規模修繕が最善なのかについては、事務局で現在、結論がでていないため、第3回会議で最終的に詰める予定である。

稼働開始については、結論がでていない延命化の稼働期間をある程度考慮し延伸したスケジュールとした。

延伸の主な要因として、

#### 項目1 合意形成 ②整備協定書の締結

関係町内会組織との対話、協議、交渉、妥結に要する期間として6ヶ月の延伸を見込んだ。

#### 項目4 用地買収

不動産鑑定額は今後、提示すること。

代替地希望の可能性及び相続等における所有権移転の可能性などを勘案し、買収に要する期間として6ヶ月の延伸を見込んだ。

#### 項目8 環境影響評価

候補地周辺に生息しているオオタカ等の猛禽類に対する生息調査の実施を千葉県環境評価委員会から求められる可能性が高いということで、当該調査に要する追加期間として6ヶ月を見込んだ。

#### 項目16 次期中間処理施設の建設工事

猛禽類に対する生息調査の結果、猛禽類の繁殖期に施工しないことなどの配慮を千葉県環境影響評価委員会から求められる可能性があることから、追加の工事期間として3ヶ月の延伸を見込んだ。

以上により、項目17次期中間処理施設の稼働開始のスケジュールを再設定した。

## (2) 建設候補地の選定

### 板倉管理者

「議題(2)建設候補地の選定」について、事務局へ説明を求める。

### 大須賀工場長

用地検討委員会の最終答申を基に、事務局の考察結果も参考として加えながら、建設候補地の選定資料により順に説明。

#### ①最終答申概要について

##### ◆各候補地の総合評点順位を説明

吉田地区(1位)、現在地(2位)、岩戸地区(3位)、滝地区(4位)、武西(5位)。

#### ◆用地検討委員会における記述評価の概要

岩戸地区：廃棄物処理施設の偏在化。

滝地区：約40mの至近距離に戸建住宅が立地していること。

30m内に千葉ニュータウン地区の戸建住宅が立地すること。

武西地区：100m内に特別養護老人ホームや大学が立地していることから日常生活への影響が最も大きいと評価されたこと。

100m内に千葉ニュータウン地区の戸建住宅計画があること。

吉田地区：提出された事業誘致の同意書について、特筆すべき優位点と評価。

現在地：300m内に高層集合住宅が立地していること。

千葉ニュータウンの中心地として今後も都市機能の発展が予想される。

#### ②周辺住民の理解度・協力度について

建設候補地の選定にあたり、最も重要視すべき比較評価要素であると考え、最終答申書の一部を抽出して纏めた。

また、候補地ごとに列記してある町内会については、用地検討委員会が周辺住民意見交換会の対象とした、候補地の敷地境界から概ね300m内に位置する町内会であり、町内会エリアの一部がかかっている場合であっても、対象町内会とした。

なお、資料中の下線付き町内会は、候補地の属する町内会であり、現在地のみどこの町内会にも属していない。

#### ◆各候補地の評点順位

吉田地区（1位）、岩戸地区（2位）、武西地区と現在地（3位）、滝地区（5位）。

候補地ごとでは、吉田地区の地元町内会である吉田区より、条件付きではあるものの事業誘致の同意書及び地域振興策の具体的な提案が書面により提出され、27点という圧倒的な評価となった。

他の候補地については、6点～9点と大差はないが、滝地区に関しては反対を趣旨とする署名2,690人の請願書、現在地についても同様に署名727人の請願書、署名13人の要望書が提出された。

町内会を個別にみると、先程の吉田地区の地元町内会である吉田区がほぼ満点の39/40点、同じく吉田地区に関係する松崎3町内会は11/40点、岩戸地区に関係する柏木台町内会は13/40点と比較的高い評価となった。

なお、その他の町内会は軒並み反対の意見が大きかったと受け止めた。

共通的な反対意見として

1点目「いわゆる迷惑施設の多くが印西市内に偏在していること」

2点目「不動産価値の低下、健康被害、農作物への影響」

3点目「ごみ収集車の通行に伴う排ガス、渋滞事故等の懸念」

4点目「都市計画決定を受け、既に保有している建替用地で整備しないことに対する疑問」

5点目「豊かな自然環境の破壊に対する懸念」

### ③現地調査

管理者・副管理者が現地踏査した際に把握した情報に基づき評価した。

### ④整備スケジュールの延伸リスク

候補地ごとに該当する下記の延伸リスクを列記し評価した。

なお、下線付きの要因は事業の実現性を脅かすものであると考える。

- ・周辺住民との合意形成

→地元町内会から同意書の提出のあった吉田地区は「リスク少」と記載。

- ・アクセス道路整備

- ・地区外水路整備

- ・用地買収

- ・猛禽類

- ・埋蔵文化財調査

→吉田地区の調査対象地の全域が畑で樹木の伐採抜根が伴わないことから、環境影響評価前に埋蔵文化財調査の着手が可能と考えられたため「リスク少」と記載。

### ⑤印西地区ごみ処理基本計画との整合

印西地区における廃棄物処理行政の最上位に位置するマスタープランであることから、本計画で掲げている次期中間処理施設の整備に関する事項との整合を評価。

以下の5点の考察事項を掲げた。

- ・住民参加による施設整備及び運営

- ・地域特性に応じた熱供給

- ・地域振興、雇用創出、環境教育、情報発信拠点、防災拠点の効果

- ・経済性を考慮した廃棄物処理システム

- ・効率的な収集運搬

網掛の考察事項については、既に用地検討委員会で審議済みであり、各候補地で大差はなかったが、一番上の「住民参加による施設整備及び運営」については、吉田地区の地元町内会である吉田区から、既に同意書及び地域振興策の具体的な提案が書面により提出されている点が挙げられる。

### ⑥中長期的な事業展開

清掃工場を一旦整備すると、更新も含め60年間程度の長期操業が想定されることから、考察事項として以下の点を掲げた。

- ◆将来的な施設更新を見据えた長期的な地域づくりにおける優位性

吉田地区の地元町内会である「吉田区」は次期中間処理施設と共に地域を育てていくといった長期ビジョンが同意書等の提出に至った背景であると受け止めている。

滝地区、武西地区は千葉ニュータウン事業用地に近接し、現在地は千葉ニュータウンの中心地として、今後も都市機能の発展が予想され、周辺住民意見交換会の状況を考慮すると清掃工場との共存の面でネガティブな要素が否めないと考える。

- ◆将来的な廃棄物関係法改正等に伴う事業用地拡張における優位性

将来、焼却処理だけにとどまらない新たな中間処理方式が実用化された場合や、平成25年4月に施行された小型家電リサイクル法を例とする新たな分別への対応、また、排熱利用における施設整備などにおいて、事業用地の拡張も考慮する必要があると考える。

拡張における優位性は、候補地の隣接地の状況により判断することとなるが、岩戸地区、滝地区、武西地区については、隣接地の大部分が樹林地及び谷津田で構成されていることから、事業用地の拡張にあたり、今後、益々地域資産としての価値が高まると思われる里地里山への影響が大きいと考えられる。

吉田地区については、隣接地の西側及び北側は樹林地及び谷津田で構成されているものの、東側及び南側にかけて、広大な畑が広がっていることから、事業用地の拡張にあたり、里地里山への影響が比較的小さいと考えられる。

現在地については、3辺を道路に囲まれていることなどから、拡張の自由度は大幅に狭まる。

以上を参考とし、総合的な考察評価により建設候補地を選定していただきたい。

#### **板倉管理者**

建設候補地を選定するにあたり、副管理者から何かあるか。

#### **岡田副管理者**

今の工場長からの説明によると吉田地区が一番に決まりのように思われるが。

#### **大須賀工場長**

考察項目からすると一番リスクが低いということです。

#### **岡田副管理者**

吉田地区もリスクに現れてないものもある。

地域振興策の提案がよくても予算に係ってくることである。

#### **大須賀工場長**

用地検討委員会の中で、比較評価した経済性はあくまで建設にかかる予算である。

#### **岡田副管理者**

吉田区からの地域振興策に関する具体的な提案についての予算は含まれていないのか。

#### **大須賀工場長**

含まれておりません。

吉田区からの提案は、あくまで吉田区の協議の中でだされたものであります。

今後、候補地として選定された場合には、組合と一緒に考えていきたいと言われております。

#### **岡田副管理者**

整備スケジュールの延伸リスクの中で、住民合意形成、アクセス道路などがあるが、現在地のリスクは住民合意形成だけとの判断でよいのか。

### 大須賀工場長

我々としては、住民の合意形成というものが1番大きなウェイトと捉えている。  
住民の合意形成が取れないところはリスクが高いと判断した。

### 岡田副管理者

これまでの経緯をみると吉田地区で決まりではないか。

### 伊澤副管理者

周辺整備の負担範囲の問題もあると思うが、それはこれからのことになるので、場所の選定については、吉田地区でよいと思う。

### 板倉管理者

私の選定ですが、用地検討委員会の最終答申を十二分に踏まえ、実際に現地踏査を通して、また、事務局の説明をみても、各候補地を多面的に判断させていただき、総合的な観点から吉田地区の優位性は揺るぎないものと判断し、建設候補地として最もふさわしいものとする。

副管理者のそれぞれの意見をお聞きしたが、このような形で方向性を決めることでよろしいか。

### 岡田副管理者

一点。

アクセス道路が整備できないことにはスケジュールが進まない。

印西市の都市計画道路の整備を管理者（印西市長）に進めていただくという前提で、了解いたします。

### 伊澤副管理者

その通りである。

### 板倉管理者

今、岡田副管理者から言われました都市計画道路の整備については、何としてでも整備を進めていくつもりである。

それでは吉田地区を建設候補地として選定し決定することとしたいと思うが、次回会議においても、いくつかの確認、協議の内容が控えていることから、最終的な建設候補地決定は、それらの確認、協議後となる。

他に何かございますか。

### 伊澤副管理者・岡田副管理者

ありません。

## 4. その他

### 山本庶務課長

第3回建設候補地選定会議の予定について事務局からの説明。

## 大須賀工場長

今回は、11月28日（金）17時からの開催とし、協議事項としては、「協定書を締結する関係町内会組織の決定」「地域振興事業の基本的な考え方の整理」「現施設の基幹的設備改良事業との調整」とします。

## 7. 閉会

### 山本庶務課長

それでは、本日の議題は終了とします。  
お疲れ様でした。